

鬼怒川災害調査報告会

主催：応用生態工学会会長特命鬼怒川災害調査団

開催日：平成 28 年 4 月 27 日（水）9 時 30 分～12 時 30 分

開催場所：東京大学農学部キャンパス フードサイエンス棟内 中島董一郎記念ホール

(<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>)

参加費：無料

趣旨：

平成 27 年 9 月 9 日に発生した関東・東北豪雨にともなう鬼怒川災害の発生を受けて、応用生態工学会では、会長辻本哲郎・名古屋大学名誉教授からの特命による災害調査団を結成した。このような枠組、そして枠組に基づく調査は、学会初の試みであり、応用生態工学としての今後の災害調査の在り方を検討するためのケーススタディーとしても有用であろう。本報告会では、経過の説明やその成果の報告を行うとともに、学会員と共に今後の災害に対する学会の在り方について議論を行う。

プログラム

開会の辞

1. 会長挨拶

辻本哲郎（応用生態工学会会長、名古屋大学名誉教授）

2. 会長特命鬼怒川災害調査団について（趣旨説明）

中村太士（団長、北海道大学大学院農学研究院教授）

3. 経緯説明

西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

4. 鬼怒川災害調査報告

報告 1) 災害の状況について

大槻順朗（団員、国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員）

報告 2) 復旧・防災・減災計画で考慮すべき自然環境

西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

報告 3) 災害後の河畔砂丘林の状況とその復元について

山田浩之（団員、北海道大学大学院農学研究院講師）

報告 4) 地形的・歴史的 analysis を踏まえた超過洪水対策

巖島怜（団員、九州大学大学院環境社会部門助教）

5. 総合討論 コーディネーター：島谷幸宏（副団長、九州大学大学院工学研究院教授）

閉会の辞

司会：西浩司（団員、いであ株式会社国土環境研究所生物多様性計画部部長）

対象・参加申し込み：

応用生態工学会会員（正会員、学生会員、賛助会員、名誉会員）を対象に開催させていただきます。

事前の申し込みは不要です。当日受付での手続きをお願いします。